

## 平成 27 年度 第九期武蔵野市環境市民会議（第 1 回） 会議要録

【日 時】 平成 27 年 12 月 15 日（火） 18 時 30 分開会 20 時閉会

【場 所】 武蔵野市役所 412 会議室

【出席者】 委員 15 名、事務局 6 名、コンサルタント 1 名

委員：一ノ瀬委員、伊藤委員、大江委員、大作委員、落合委員、小玉委員、小林委員、鈴木委員、力元委員、中野委員、西上原委員、三浦委員、村越委員、山根委員、郡委員

- 【内 容】
- 1 第九期環境市民会議の委嘱状の交付
  - 2 委員長、副委員長の互選
  - 3 武蔵野市の環境行政について
  - 4 第九期環境市民会議のスケジュール及び検討事項
  - 5 各委員挨拶

### 1 第九期環境市民会議の委嘱状の交付

市長から各委員に委嘱状が交付され、続いて市長挨拶が行なわれた。

### 2 委員長、副委員長の互選

大江委員が委員長に推薦され、全員の賛成を得た。

発言者	要旨
委員長	以前は大学で環境ビジネス、環境マーケティング等について研究をしていたが、3月に定年退職した。前期（8期）からこの会議に参加しているため、引き続きになる。環境はごみ、緑、水、エネルギー等、幅広いため、ややもすると個別の結果を待ち漠然としてしまう感想を持っている。皆様の多様な思いや専門、関心を活かし、市民目線で武蔵野市の問題に主体的に取り組んでいきたい。具体的には、間隔が空き過ぎないように、適宜会議を開催し、間が空くときには現場を見て回る機会を設けて、環境を身近に引き寄せながら、皆様と一緒に進めていきたい。

次に、副委員長について、立候補、推薦がなく、大江委員長が鈴木委員を推薦し、全員の賛成を得た。

発言者	要旨
副委員長	所属する大学の専攻は芸術系の環境デザインである。元は農学系で、住宅公団で公園の設計等に携わっていた。環境分野での自治体との関わりも色々な形である。以前より武蔵野市に住んでおり、住みやすく、問題も少ないところだと感じるが、より良い環境を目指し力を尽くしたい。

### 3 武蔵野市の環境行政について

- 郡委員（環境部長）による、武蔵野市の環境行政の経緯と現状についての説明
- 事務局による、第四期武蔵野市環境基本計画の概要についての説明。

### 4 第九期環境市民会議のスケジュール及び検討事項

事務局による、第九期環境市民会議のスケジュールについての説明

## 5 各委員挨拶

発言者	要旨
委員	クリーンむさしのを推進する会から参加している。集団回収や堆肥化の取り組みで、地域の方々と交流がある。そのような取り組みを通して私たちの活動がさらに広がればと思っている。
委員	公募で参加している。環境基本計画のスマートシティという言葉に関して、2020年のオリンピック・パラリンピック開催が間近に迫っている時期でもあり、外国人の同等レベルでの英語を使用してよいと感じた。同じく環境基本計画の中の「主体的」という言葉も気になった。自分が住む武蔵境はアパートが多く、行動主体となる町内会のようなものがほとんどない。「主体的」とは、具体的にどういうことを指すのか、実体が伴うように考えたい。また生物多様性について、身近ではなく市民も意識していない分野だと感じるので、生物多様性と武蔵野市との関連について説得力のある枠組が必要と思う。会議では、行政として喫緊の対応が必要な課題を明確に示したほうが、有効な意見が出やすい。
委員	東京ガス西部支店から参加している。創エネ、省エネ、水素等の技術や知識を行政・地域に、随時発信するよう努めていきたい。私は武蔵野市在住ではないので、市民とは違った目線からも発信できればと思う。
委員	大学で獣医学、公衆衛生学を専攻している。地方出身で、現在は武蔵野市内在住である。東京は住みづらいと思っていたが、武蔵野市は緑も多くて住みやすいというのが実感である。環境を維持し、改善していきたいという思いで、環境政策について勉強し、専門である獣医の視点から意見を述べていきたい。
委員	第8期から引き続き事業者として参加している。ビル管理、警備や家庭ごみの収集運搬等の業務を行っている事業者である。前回の施設見学が有意義だったので、今期にも期待している。
委員	武蔵野市コミュニティ研究連絡会から参加している。武蔵野市には16のコミュニティセンター（以下コミセン）があり、各コミセンの代表が集まる組織がコミュニティ研究連絡会である。コミセンは各地域の自治会的な役割を担っており、リサイクルや環境に熱心なところもある。研究連絡会への情報提供と、この市民会議へのフィードバックを通して、互いに勉強していきたい。
委員	横河電機から参加している。社内ではCSR部署に所属し、ISO14001の事務局も担っている。環境基本計画の重点項目である「わかりやすい情報の発信」について、社内でも難しい環境用語への拒否感を感じており、市民に対してもわかりやすさが大切だと思っている。生物多様性については、当社の取り組みに反映できるよう勉強していきたい。
委員	公募で参加している。生協の監事として監査役を務める他、大学院に通い、消費者教育と環境の関係、食育、食品表示をテーマとして研究している。長く住んでいる武蔵野市と他の自治体を見比べて、行政によりその取り組みが異なることを感じている。ごみの水切りのシステム等について、学びたい。
委員	武蔵野市の消費生活センターで、子どもやその親に向けて、食環境やエネルギーについて伝える活動をしている。長くこの市民会議に関わってきて、地球温暖化対策、生

	物多様性等全ての分野にまたがる環境づくりが、市民目線・消費者目線では大事だと感じている。皆様と議論しながら、良い考えを出していきたい。
委員	成蹊大学に所属しており、専門分野はエネルギーの創エネ・省エネである。特に発電や医療に関わる超伝導を研究している。市内の緑と気温の関係、ゴーヤカーテンの効果等について市と連携しながら学生も参加させて調査を行ってきた。エネルギーだけでなく、生物多様性についても学びながら、意見を出していければと思う。
委員	市立小中学校校長会を代表して参加している。井之頭小学校の校長を務めている。同校は井の頭公園等の自然が身近にある立地から、環境教育を特色としている。皆様と意見を交えたいと思う。
委員	緑町在住で公募で参加している。以前、東京都の森林技術者として、森林管理と、行政同士の調整等に携わった。その後起業し、森林に関するコンサルタントや樹木医の活動をしている。これまで武蔵野市には仕事ではそれ程関わることができなかったもので、この市民会議の場で還元したいと考えている。
委員	今は市の環境部長だが、元来は土木職で、道路の設計や吉祥寺のまちづくりにも関わった。都への派遣時に初めて環境に関わった。異動ごとに新しいことを勉強できるのが市役所の良い部分である。それぞれの立場で関わっておられることを教えていただくことが糧になる。皆様にも、多くのことを教えていただきたい。
委員長	多様なバックグラウンドを持つ委員の皆様に集まりいただき、これからが楽しみである。委員の皆様が顔を合わせる機会を増やし、コミュニケーションをとりやすくしたい。現場見学等も入れて、皆様の目線で計画の柱を作り上げていきたい。